

九州八十八ヶ所百八霊場会開創三十周年記念事業 土砂加持法要・お砂踏みを開催

～多くの参拝者が訪れる～



百八霊場結願札所鎮国寺本堂前での庭儀

九州八十八ヶ所百八霊場会開創三十周年記念事業として、平成二十七年五月二十三日（土曜日）に福岡県宗像市の第八十八番札所鎮国寺において「祈り〜いま、一途に〜」のテーマのもと、霊場会各寺院僧侶、先達が一堂に会し「土砂加持先祖供養法要」が執り行われました。

「土砂加持先祖供養法要」は、午前十一時と午後二時の二座に分けて厳修。

法要では、まず、法要の無魔成満を祈念するために百八霊場の結願札所である鎮国寺奥の院へ登嶺。法螺吹奏と共に出仕僧侶が石仏の並ぶ参道を辿り奥の院に向かいました。奥の院にて御法楽を捧げ、引き続き法螺に導かれ境内へ。堂前での職衆による庭讃は境内へ響きわたり、辺り一面に凜とした空気が広がりました。堂内は多くの参拝者で埋め尽くされ、職衆の方々を合掌して迎えられるその姿に真摯な祈りのかたちを見ることができました。



第7号

発行者

九州八十八ヶ所百八霊場会

〈事務局〉

〒812-0037

福岡市博多区御供所町2-4
東長寺内

電話 092-291-4459

FAX 092-291-4504

【ホームページ】

<http://www.kyushyu88.com>

【フェスブック】

<http://www.facebook.com/kyusyul08>



鎮国寺堂内 参拝者と共に祈りのひと時



実行委員長による願文奉読

一時間程の法要では、僧侶による祈りと御参拝の皆様による祈りとそれぞれの祈りが相まって「祈り〜いま、一途に〜」のテーマを体現した法要となりました。心配された天気も御大師様のお見守りのお蔭でしようか穏やかな天気となり、全国各地から一〇〇〇名に及ぶ参拝者を迎え盛会のうちに無魔成満致しました。



九州八十八ヶ所百八霊場会 開創三十周年記念特別対談

霊場会三十周年を記念して執り行われた大法会と記念事業。
その中心を担った霊場会会長と記念事業実行委員長に思いを
語っていただきました。

IT 霊場会開創三十周年という節目の年を振り返って、現在のお気持ちをお聞かせ下さい。

原口 この霊場会ができた三十年前の日本というのはバブル景気全盛で物質的、金銭的には非常に豊かになった。しかしその反面、いじめ問題の深刻化などで、人の心は精神的に非常に蝕まれていた時代であったと思います。その頃、霊場会開創の祖である堤覚誠僧正は「このままでは日本が駄目になってしまふ。皆が手を合わせて感謝の心を持つこと。そして、皆が幸せな毎日を送れるように手を合わせねば」と発願されたのが「九州八十八ヶ所霊場(当時)」なんです。ですから、この霊場は「お遍路」ではなく、参拝者が本堂に上がり本尊様に手を合わ



原口 元秀 会長

霊場会会長	原口 元秀 僧正
記念事業実行委員長	堤 大恵 僧正
進行	広報 IT 委員

せ、住職様の法話を聞いて、ご接待を受け、「心の安心(あんじん)」を得ていただくという霊場なんです。それから、もうあつという間に三十年が経ちましたけれど縁というのは不思議なもので、遷化された堤覚誠僧正の御子息が現在、先代の思いを受け継ぎ御住職となられ、開創三十周年記念事業実行委員長として「土砂加持法要」そして「高野山

参拝」という記念事業を見事、成功に導いて下さいました。これも偏に覚誠僧正と御大師様のお導きによるものと思います。



参拝者へ挨拶される原口会長

堤 三十年の年月に思いを馳せると霊場会を開創され、尽力された方々の思い、その志を引き継ぎ後世に受け継いでいくという使命が私達に課せられているのではないかと考えています。

ですから、開創三十周年の折節に原口僧正が霊場会会長をされ、私が記念事業の実行委員長を務めさせていただくこともやはり縁と

本尊様に手を合わせ、住職さんの法話を聞いてご接待を受け、心の安心を得て頂く霊場なんです——原口 元秀

開創された人たちの志を引き継ぎ、受け継いでいくのが 私たちの使命であると思います——堤 大恵

言わざるを得ません。初代会長である先代覚誠僧正の思いを原口僧正が繋げ、次の世代である私達がそのタスキを引き継ぎ、そしてまた次の世代に伝えていかなければいけない。その役目を果たしているものと感じています。

IT 大成功であった記念法要、記念事業について感じたことをお聞かせください。

堤 今回の記念事業のひとつである「高野山参拝」では、真言宗以外の方々が、とても感動されていたとの話をお聞きました。「高野山での記念法要が終わった瞬間に涙が出ました」「御廟が見えた瞬間に鳥肌がたちました」など。このような事業は、霊場会でなかったらでき得なかったことだと思えます。様々な方の御協力と御大師様との縁、そのお導きに心から感謝する次第です。

原口 本当、そのように思います。絶対に出来ない事だと思えます。この度の機会は、御大師様を選ば

れたという思いがしました。そして実行委員長をはじめとした多くの方々の御尽力により、宿坊の手配や高野山真言宗金剛峯寺法会部法会課の御協力の元、全員分の納衣もお借りすることが出来ました。これもやはり縁としか言いようがありません。

堤 奥の院燈籠堂での法要は圧巻でした。参拝者総勢二六〇人の思いが一つになったような気持ちがしましたよ。



堤 大恵 実行委員長



願文奉読される堤実行委員長

原口 しかし不思議ですね。必要な人が集まる。そのようになっているのですね。今回の記念事業には、沢山の若い僧侶の方が参加して下さいました。とても嬉しいことです。

堤 私もそのように思います。特に福岡県、大分県の若い僧侶の方々には御尽力頂きました。とても有難く思います。今後、他県の若い僧侶の方々の参加、ご協力があれば、当会はもっと盛り上がるものと思います。

原口 「土砂加持法要」も「高野山参拝」も記憶に残る素晴らしいものでした。

堤 現在、当会の世代間、特に私達の世代は、若い世代とは上手く相互関係が出来ているように思います。それぞれの関係をより強固にする好機が今と私は捉えています。

原口 今を逃してはいけませんね。

堤 今回が全てではなく、これからが始まりだと思えます。私達だけが満足してはいけません。開創された人たちの志を次の世代に伝えていくその思いを新たにしました。私にとりまして今後の課題となります。

堤 私達の世代は、原口会長を初めとした世代の皆様にご協力して頂きました。私達は、先輩世代と若い世代の方々との橋渡し世代だと思えます。そのような意識で上手くタスキを繋いでいければ良いと思っています。

IT お二人の思いは共通されているようですね。では、これからの霊場会についてお聞かせ下さい。

原口 霊場には沢山の方がいろいろな思いを抱いて参拝に来られる。生老病死、いろんな悩みがある。悩みたくなくても悩まなくてはいけない。そんな様々な思いを霊場に來て菩提心に変えて頂く、そのような霊場を目指して若い僧侶の方たちにも頑張っていたきたいと思えます。

堤 先ほども申し上げましたように、受け継ぎ伝えていくことは、そう簡単なものではないと思います。温故知新、時代の潮流で変えるべきところもあるかもしれない。しかし、受け入れることのできない場面もあると思う。受け継ぐべきところは正しく受け継いでいく。先人らの思い、志を残した上で、うまく今のカタチとして残していく。そのような責任を次の世代には期待したいです。

IT この度は、貴重なお話を賜り有り難うございました。

開創三十周年記念事業 土砂加持アルバム



九州八十八ヶ所百八霊場開創三十周年記念

開創一二〇〇年

高野山参拝と伊勢神宮の旅

(祈り しま、一途に)

平成二十七年十月十三日(火曜日)より十五日(木曜日)の日程で、九州八十八ヶ所百八霊場開創三十周年記念事業として「開創一二〇〇年高野山参拝と伊勢神宮の旅(祈りしま、一途に)」が開催されました。

福岡から出立の皆様は、当会会長原口元秀僧正がお連れした修行大師様と共に博多駅を出発。他県より出立の方々とは高野山にて合流し、総勢二四一名もの団体参拝旅行と相成りました。高野山にて合流した宮崎県、大分県の方々と共に先ず伺ったのは、高野山真言宗総本山金剛峯寺。後、壇上伽藍を散策。心配された



天候にも恵まれ、御大師様が微笑んでおられるかのような快晴でした。壇上伽藍、金堂での秘仏、御本尊薬師如来の特別御開帳には、参拝者から感嘆の声があがり、皆様と共に喜びと感動を分かち合いました。

参拝の後、高野山内の宿坊に分宿し初日は終了しました。

記念法要が執り行われる二日目。御寺様方は早朝より法要の準備。参拝者の一行は、奥の院へ向かいました。昨日同様、晴れ渡る空の下、午前九時より奥の院燈籠堂にてお連れした修行大師様も御一緒に法要が執り行われました。奥の院燈籠堂での法要は幻想的で、

読経の声と相まって、言葉に出来ない美しさと有難い境地に身を置くこととなりました。

「祈りしま、一途に」の思いが千二百年を迎えた高野山でひとつになった瞬間でした。法要後の記念写真撮影会では、あまりの日差しの強さに皆一様に手をかざし、微笑ましい光景が広がりました。土産店では笑顔での買い物、和気藹々とした中での昼食。思い出をたくさん心に詰めて高野山を後にしました。

大型バス7台での移動は、さながら、大人の修学旅行。宿泊先である伊勢神宮近隣の宿では、伊勢湾で採れた海の幸を堪能。名物の温泉に身も心も癒されました。



三日目は、午前八時に出立。伊勢志摩の観光スポットである二見興玉神社の夫婦岩を観光。日の出を遙拝する時間ではなかったが、潮風が心地よい朝のひと時となりました。伊勢神宮では先ず、衣食住を初め産業の守り神である豊受



大御神をお祀りする外宮(豊受大神宮)へ。引き続き、天照大神をお祀りする内宮(皇大神宮)を参拝。百二十五もの宮社を有する神宮は広く壮大で、式年遷宮された社殿は美しく圧巻の一言。木々の織りなす空間に心打たれながら修行大師様と共に参拝させていただきました。

帰路、笑顔が溢れ、話題も尽きぬ皆様の様子に、今回の記念事業の成功を確信致しました。

全行程にわたり共に同行いただいた修行大師様、法要をお勤めいただいた御寺様方、旅の手配に尽力いただきました第一観光様。多くの方々のご尽力と良縁に感謝。

参加されたすべての方々の心がひとつになれた旅路、記念事業でした。

第十八回先達研修会 報告

平成二十七年九月八日（火）に第一番札所東長寺に於いて、平成二十七年年度第十八回先達研修会が開催されました。出席者は、本部先達七名（講師含）、寺院関係四名、一般先達十名（内初参加二名）第一観光二名の計二十三名。

まず、先達委員の奈須隆文僧正より開会の辞が述べられ、引き続き御法楽。先達委員長である渡辺光昭僧正より「第一観光に加え阪急交通社も参入し巡拝者が増え、今後益々、先達の活躍する機会が増えてくると思われる。本日はしっかりと学習して今後の先達活動に生かし、霊場会発展の為に御尽力頂きたい」と挨拶がありました。その後、第四十一番札所天長寺長谷川慈照僧正を講師に迎え御詠歌「揚柳」の講習があり、御詠歌の基本について実習を交え研鑽しました。

また、先達初心者には先達委員である松山義璋僧正よりお経の頭の取り方を中心に指導があり、先達経験者には、先達委員の桐井龍導僧正から先達の心得やアドバイスが行われた後、質疑応答されました。



九州八十八ヶ所百八霊場会理事 長堤大恵僧正より統括



として「先達の皆様は、巡拝者の方々と直接接する立場なので御大師様と同行二人の精神を基に、正しく御大師様のみ教えを伝えてほしい。霊場主催の

高野山参拝（平成二十七年十月十三日～十五日開催）には、参拝者と共に御大師様への感謝の誠を捧げる素晴らしい旅路としたい」旨の話がありました。

第十八回先達研修会は、盛会のうちに終了しました。

式次第は以下の通り。

- 一、開会の辞
- 二、御法楽（般若心経）
- 三、先達委員長挨拶
- 四、御詠歌 講習
- 五、経頭の仕方、先達の心得
- 六、その他質疑応答
- 七、理事長総括
- 八、御法楽
- 九、閉会の辞



広報IT委員会報告

広報IT委員会は、年に三回の委員会を実施。会合では、○霊場会活動内容の情報発信とホームページの充実○観光と霊場巡りの連動、その広報について○即効性あるSNSとホームページ双方の有効活用方法の模索○霊場各寺院への広報ITの啓蒙活動○今後の活動計画とその実施○会報の充実と係る事業担当者の選出○時代の流れに即した臨機応変な対応をどうするか：等、多岐にわたる懸案

がその都度提起され、様々な角度で協議された。広報IT委員会としては、今後、一つ一つを丁寧に検討し、霊場会との連携を密にし迅速に対応する旨の方向性を導き出した。

平成二十七年六月十六日（火曜日）
第一回広報IT委員会開催。
平成二十七年十二月七日（月曜日）
第二回広報IT委員会開催。
平成二十八年三月下旬
第三回広報IT委員会開催予定。

集記 編後

霊場会開創三十周年を彩る意味で、会報作成作業には委員それぞれに思い入れがあり、出来上がった会報を見るに感慨深いものがあつた。発行にあたって、まず、霊場会寺院向けの会報にすべきか、広報活動の一環として有用な活用すべき会報を作るべきか。その記事、内容の精査は。写真は何を使うのか。その部数は。誰が何をどのようにするべきか多岐にわたる意見をぶつけ合い、手探り

今回の会報は、お読みになる多くの方々を思って心を込めて作成させていただきました。広報IT委員会の活動が、霊場会発展の一助となれば幸いです。

※広報IT委員会

福岡県	第八十九番札所	金剛頂院	羽坂孔全
佐賀県	第六十八番札所	徳泉寺	佐伯公経
熊本県	第六十二番札所	誕生院	山口光玄
長崎県	第一〇三番札所	大定寺	松本龍希
大分県	第九十九番札所	高野寺	味岡戒孝
宮崎県	第五十番札所	願成寺	中村禎成
鹿児島	第七十三番札所	西光寺	前田大輔
鹿兒島	第九十五番札所	明王寺	吉水亮善
	第二十八番札所	興山寺	岡部啓聖
	第四十二番札所	弘泉寺	成松昇紀
	第三十六番札所	貫川寺	横井弘照
	第四十七番札所	光明寺	川上昇観
	第四十六番札所	峰浄寺	小島聖弘

